

ESDに関するユネスコ世界会議の成果について（ユネスコ事務局案）

「ESDに関するユネスコ世界会議」の最終日の全体会合では、宣言の採択を得て、ステークホルダーからのコミットメントを含めた「ESDに関するグローバルアクションプログラム」のハイ・プロファイルな発表を実現する。

宣 言

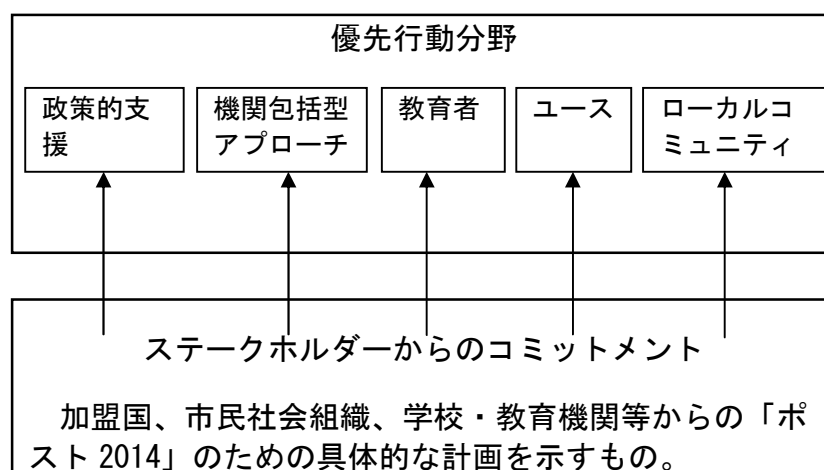
ISG に諮りつつ、ユネスコによって事前に草案が作成され、「ESD ユネスコ世界会議」での議論を踏まえて内容が固められる。

- (1) UN とりわけユネスコの位置付けを明確にしつつ、DESD 以降に ESD を更に発展させるための政治的な関与を確認する。
- (2) 質の高い教育の不可分の要素としての ESD を強化する。
- (3) 持続可能な開発のための触媒として ESD を強化する。
- (4) ESD に関するグローバルアクションプログラムを開始する。

ESDに関するグローバルアクションプログラム

「国連 ESD の 10 年」の後継プログラムとしての位置付けであり、「ESD ユネスコ世界会議」で下記 5 点を優先分野として発表される。

各ステークホルダーからのコミットメントは、テンプレートを用いて収集される。



ESDに関するグローバルアクションプログラム（2015-） [案] について

1. 目的

グローバルアクションプログラムは、持続可能な開発を加速するために、教育・学習の全ての段階・分野で行動を起こし強化するためのものである。この目的は、二つの下位目的がある。

（１）全ての人が知識、技能、価値観、態度を得る機会を持つために、教育・学習を再方向付けし、持続可能な開発に貢献するよう能力向上すること。

（２）持続可能な開発を促進する全ての関連アジェンダ・プログラム・活動において、教育・学習の役割を強化すること。

2. 優先分野

グローバルアクションプログラムは、戦略的に焦点を合わせ、ステークホルダーのコミットメントを可能とするために、５つの優先行動分野に焦点を合わせる。

（１）政策的支援

ESDを教育と持続可能な開発の国際及び国内政策に反映する。持続可能な開発のための教育・学習に動員し、ESD行動をフォーマル・ノンフォーマルな教育・学習で強化するためには、それを可能にするような政治環境が重要である。

（２）機関包括型アプローチ

全ての段階と場においてESDの機関包括型アプローチを促進する。全校的もしくは、学校全体のアプローチは、教授内容や方法論の再方向付けだけではなく、キャンパスや施設管理においても求められるものである。

（３）教育者

ESDに関する教員、トレーナー等を強化する。教育者は、教育的変化や持続可能な開発の学習を手助けすることを育むための最も重要な「てこ」の一つである。

（４）ユース

ESDを通じた持続可能な開発のための変化の主体としてのユースの役割を支援する。ユースは、彼ら自身またこれからの世代のためのよりよい将来を形作るため、高い関心がある。さらにユースは、今日、一層の教育的プロセスの駆動輪である。

（５）ローカルコミュニティ

ＥＳＤを通じた地域レベルでの持続可能な開発の解決の探求を加速する。持続可能な開発の効率的・革新的解決は、しばしば地域レベルで開発されている。マルチステークホルダーの対話と協力は重要な役割である（例えば、地方政府、非政府組織、民間セクター、メディア、教育と研究機関、市民）。

3. 実施

（１）グローバルアクションプログラムは、グローバル、地域、国、地元レベルで実施されることを期待されている。全ての関係ステークホルダーは、５つの優先行動分野の下に活動を発展せることを推奨されている。

（２）実施を容易にするために、５つの優先行動分野それぞれの鍵となるパートナーが特定され、５つの優先行動分野の下に、コミットメントが求められる。これらの活動は、タイムライン、対象を具体的にし、その他の者によるさらなる活動の触媒となることが期待される。ＥＳＤに関する研究は、それぞれの優先行動分野における進展を支援するよう奨励される。これにはＥＳＤへの革新的アプローチに関する研究も含まれる。

（３）国連ESDの10年の経験を構築し、国内調整機能の設置が推奨され、もしくは成功した機能の継続がこの10年間に位置付けられた。

（４）ユネスコ事務局は、これらの主要な機能を維持するため、パートナーシップを通じたグローバルアクションプログラムドラフトの実施を容易にすること、グローバルレベルの進捗状況をモニタリングすること、鍵となるアクターや成功事例のクリアリングハウスを提供する。

（５）ＥＳＤの適切な活動の需要が認識されている。同時に、ＥＳＤは、上乗せされたアジェンダではなく、教育と持続可能な開発の問題として、教育と持続可能な開発の既存のファンディングメカニズムからＥＳＤへ資金動員することである。

（６）グローバルアクションプログラムは、定期的にモニタリングされる。報告のメカニズムは、特別のターゲットやベンチマークを含み、インパクト主体のレポートとし、エビデンスに基づくモニタリングのための必要性を考慮して構築される。

（７）グローバルアクションプログラムは、2014年ESD世界会議で発表されることが期待されている。グローバルアクションプログラムは、5年後にレビューされ、必要に応じて優先行動分野の変更もあり得る。